

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 4月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	0170200448		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム茨戸ふぁみりあ		
所在地	札幌市北区東茨戸2条2丁目50 (電話) 011-774-8863		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年4月18日	評価確定日	平成20年4月28日

【情報提供票より】 (20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 4.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨木造ログハウス 造り
	2階建ての 1、2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均日額)	1900円(日額)	その他の経費(日額)	夏季1日(4-9月)300円 冬季1日(10-3月)400円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 250 円
	夕食	260 円	おやつ 円
	または1日当たり	760 円	

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	1	要介護2	2		
要介護3	2	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 85歳	最低	80歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌優翔館病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市郊外の広大な敷地に、同一系列の多数の福祉施設や病院が立ち並ぶ区域の中に位置する。豊かな自然に恵まれ、広い畑もあって、季節ごとの風景や自然とのふれあいを楽しむことができる。建物はログハウス風の木のぬくもりに満ち、屋内は広く、高い天窓から差し込む明かりが開放的な気分を誘う。病院を母体とする特別養護老人ホームから派生する形でグループホームが創設され、その後市内各所に展開しているが、それらの統合の利点を遺憾なく発揮し、利用者の安心につながっている。職員の教育は法人全体として組織的に整備され、行き届いている。町内会に加入して各種の行事に参加するなど、緊密な協力関係が築かれ、小学校や住民との交流も盛んである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 介護計画の家族への報告、役割・楽しみごとの支援、外出困難な利用者への対応、高齢者問題の相談支援機関としての取り組みについては、いずれも真摯に取り組まれ、改善が見られている。家族への、文書での定期的な報告の手段としてのホーム便りは、目下、模索検討中である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ミーティングで説明をした上で全職員に用紙が配られ、各人が記入したものを管理者がまとめ、それをさらに話し合っって自己評価を作り上げた。管理者はじめ職員は、自己評価に取り組む中で、日ごろの業務を振り返り、課題を見い出すきっかけとして活用している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回定例で開催され、町内会、老人会、地域包括支援センター、有識者として有料老人ホーム施設長、利用者家族、そして施設側職員が参加メンバーとなって、ホームの運営状況、事故への対応のあり方、評価などを議題として話し合っている。施設周辺の道路改善について町内会が市への交渉に助力してくれるなど、会議の成果が活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 外部の苦情受付機関を重要事項説明書に明記することにも、法人内に第三者で構成する苦情受付機関を設けて対処している。受けた苦情はマニュアルとフローチャートにより処理するよう、取り扱いが標準化されている。日ごろより家族の意向に注意を払い、言いやすい雰囲気作りに努め、出された意向は当該利用者の台帳に特記し、ケアプランに反映させている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に加入して各種の行事に参加するなど、緊密な協力関係が築かれている。老人クラブで集会場がなくて困っていた時には系列の施設での便宜提供を図った。施設の夏祭りには近隣住民をも招く。近くの小学校との付き合いも活発で、運動会、学習発表会に招かれ、よさこい踊りで来訪を受けたりしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設理念として、家庭的な雰囲気の中で支えあい、地域の中でその人らしく生活できるケアを提供する、という基本方針を掲げているほか、生きがい、安心と笑顔で、仲良くなど、4つのホーム目標を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設理念は居間に掲げられ、また職員はカードにプリントしたものを携行してたえず心に刻んでいる。日々のミーティングや会議で不安や疑問が生じたときは理念に立ち返って方向性を確認するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して各種の行事に参加するなど、緊密な協力関係が築かれている。施設の夏祭りには近隣住民をも招く。近くの小学校との付き合いも活発で、運動会、学習発表会に招かれ、よさこい踊りで来訪を受けたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングで説明をした上で全職員に用紙が配られ、各人が記入したものを管理者がまとめ、それをさらに話し合っって自己評価を上げた。管理者はじめ職員は、自己評価に取り組む中で、日ごろの業務を振り返り、課題を見い出すきっかけとして活用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定例で開催され、ホームの運営状況、事故への対応のあり方、評価などを議題として話し合っている。施設周辺の道路改善について町内会が市への交渉に助力してくれるなど、会議の成果が活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に事務的な用件で行き来するほか、法人が中心となって、グループホーム管理者連絡会議に参加し、市の担当者と交流している。	○	様々な行政サービスや情報を得、また連携してサービスの向上に取り組むために、なおいっそう市当局との接触に努めることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態に変動があった場合は、すぐに電話して知らせ、家族が来訪した折には貯めておいた写真を見せるなどして詳しい報告をしている。金銭出納帳は毎月請求書とともに家族へ送付している。	○	随時の口頭連絡では伝えきれない、ホームの状況や各人の生活ぶりを定期的に家族に連絡するために、定期発行のホーム便りを検討するよう、期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内に第三者で構成する苦情受付機関を設けて対処している。受けた苦情はマニュアルとフローチャートにより処理するよう、標準化されている。日ごろより家族の意向に注意を払い、出された意向は当該利用者の台帳に特記し、ケアプランに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の職員異動は極力抑えてはいるが、職員のレベルアップのために最小限は必要と考えている。職員の働きやすい環境に配慮し、離職者の出ないように努めている。異動があった場合、家族には知らせているが、利用者には本人の事情を考慮しながら対応している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体としての職員教育計画に基づいて研修派遣や法人内研修を行っている。法人の規模が大きく、包括的な職員の教育体制が整っており、年間6回程度の内部研修が主体になっている。資格年限のある者には順次認知症介護実践者研修を受けさせている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市グループホーム管理者会議で同業者間の交流を行っているが、法人内に多くの高齢者施設、グループホームを抱えているためそこで多くの交流の実をあげている。なお、法人外の同業者にも交流を広げることが検討中である。	○	法人外同業者にも自らの施設を見直す対照となる点が少なからずあると考えられるので、ぜひ、検討中の計画が実現されるよう、期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始に先立って訪問、見学を勧め、場合によっては他のホームとの比較も勧め、十分納得しての利用となるよう努めている。入居の当初は職員が様子を見て声をかけ、趣味に合わせて他の利用者と引き合わせたりしている。居室内の雰囲気作りも馴染みには重要と考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物たたみ、食事の準備などの家事作業、畑の手入れ、収穫など各自の希望と能力に応じて役割分担をしながら、介護者も楽しめる介護を理想として、言葉をかけ、笑いを引き出す工夫をしている。滞っていた便通があったときなどは職員ともども、喜びあうような場面もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ声かけを絶やさないようにし、表情を注意深く観察する。柔らかな表情、とげとげしい表情、乏しい表情などを見逃さないようにキャッチしてその理由を考え、思いや希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議にて前回の介護計画の評価、見直しを行い各職員が日誌や個人ケース記録、看護記録、家族情報などを基に介護計画を作成している。介護支援専門員が計画内容の監理を行い家族に報告をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の短期目標は、3ヵ月に設定されており定期的に見直しが行われている。健康状態や精神状態に著しい変化が生じた場合は、勤務中の職員や管理者、利用者を担当している職員と職員会議を開催し新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の特別養護老人ホームや老人保健施設、介護予防センターなどの複数の相談窓口と連携し、本人や家族の状況に応じた柔軟な支援を行っている。事業所としてできるところとできないことを説明している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけかかりつけ医は変更しないほうが望ましいという、協力医療機関からの指導もあり、医療機関と事業所の連携を図りながら入居前からのかかりつけ医に受診できるよう、家族や職員が通院の介助を行って支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合の対応についての説明を行い、書面にて確認している。看護師が訪問する医療連携体制があり、協力医療機関が近距離にあるので体調が変化した場合は、家族、主治医、事業所とで話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法の規定に沿って法人内で個人情報を取り扱う担当部署を設けている。保管場所、年数、廃棄方法などを取り決め管理している。言葉かけをする時には、本人や周りの利用者が不快な思いをしないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間は、朝食に間に合うように言葉をかけている。午前中に体操をしているが参加については利用者の意思を尊重している。居室で編み物をしたり手芸を楽しむことができるよう一人ひとりのペースを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできることを把握し、職員と一緒にやしのひげ取りや根菜類の皮むき、食事の盛り付け、後片付けなどを行っている。職員が洗った食器を利用者が拭くなどの協働作業が行われている。おやつや誕生日の食事には、利用者の好みが入り入れられている。	○	献立作成は、職員2名でひとつのチームを作り3ヵ月分を4～5パターン作成しているが、利用者の好みを取り入れることができるよう一緒に相談しながら作成できるよう期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	土曜、日曜、水曜日を除く週4日の午後に入浴の時間を設けており、入浴日や時間などは柔軟に対応している。入浴後の水分の摂取や整髪などもゆっくりと丁寧に時間をかけて行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌の好きな利用者と一緒に歌ったり、農家をしていた利用者から畑の作り方を教えてもらっている。居室の洗面所で小さな衣類を洗濯したり、皮むきなどの調理に参加できるよう支援している。	○	生活歴から好みを見つけ、機会を増やしていきたい、とのことなので、積極的な働きかけを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日や入浴のない日に散歩などを行っている。近接している他のグループホームを訪問することもあるが冬期間は外出の頻度が減少することがある。	○	冬期間は、近隣の大型商業施設などへ外出することでストレスの発散や気分転換、五感の刺激、地域との交流を図ることができるよう期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通常は鍵はかけていないが、入浴の介助などのために見守りができない場合に、やむを得ず数分間のみ鍵をかけることがある。帰宅の訴えが強い場合は、家族と話し合いを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時には近接している法人内の施設から協力を得られる体制を整えている。年2回職員を対象に消火器、火災報知器の取り扱いなどについて訓練を実施している。	○	来年度からは、防火管理者の設置が義務づけられるため現在、消防署との連携、取り組みを検討中である。検討中の計画が実現されるよう期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の量は毎食、一人ひとりの日誌に記録している。食べ物の好き嫌いがある場合は他の食品で栄養を補っている。食事を楽しむことができるように言葉かけや介助の方法を工夫している。	○	定期的に管理栄養士の指導を得ることができるように関係機関との連携を検討中である。取り組みが実現されるよう期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物には、ニュージーランド産の建材を使用し、食堂の吹き抜けの天井からは明るい日差しが入っている。ゆったりとしたソファや椅子が配置されており、壁面の飾りには季節感を採り入れる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた家具や日用品を継続して使用できるように本人や家族と話し合っている。毎日の暮らしであった方が良いと思われるものについては、家族と話し合い購入している。	○	入居時、既に馴染みの物がない利用者の居室づくりについては、家族と事業所が連携を図ることで居心地のよい居室作りが検討されるよう期待したい。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。